

## 荒川水系河川整備計画（原案）に対する公聴会

日 時：平成 27 年 12 月 21 日（月）13:20～13:40

会 場：②国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所

発言者：公述人 4

私は江戸川区より参りました。現在、荒川河川敷流域に住んでいる一人でございます。地元では、小松川平井地区連合町会参加 5 1 町会プラス 1 7 の■■■■■をつとめさせて頂いております。今日のお話がありましたときに、荒川という所は非常にどういってお話をして良いのか資料は特別に作っておりませんが、思いのまま今まで 30 年間、荒川市民会議というものが設立された時の第 1 期生として、現在も荒川市民会議の方で、地元で活動させて頂いております。私どもが、この荒川将来像というものを頂いたときに、まだまだスーパー堤防の話もなく、また本当に自然そのものの、良いとか悪いとかお話は別にして、川っていうものはこういうもんだという程度のしか知識しか無かった訳です。そのときに、始められたメンバーが動植物を愛する人、あるいは河川敷を利用しているスポーツ団体。まあ、様々な方が、地域の住民の方々ですね。ですから、まだ川はその当時、今ほどきれいではなかった。川に行くと非常ににおいがすごい。汚い川であったという風に思っております。なかなかスーパー堤防を造るといときには、ピンと皆来なかった訳です。具体的にお話が出てきたときに、今の社会も同じようなもんですけれども、何でも反対する人がいっぱい出てくる訳です。俗に言うクレーマーですね。当時のこの荒川下流工事事務所の所長さんを始め職員の方と一緒に、とにかく地元のことはまず地元で任しちゃってくれと。地元で納得すれば事業は早く進んでいくはずだと。最初で躓くと、その分、遅々として進まないという事例があるから、是非、地元でいろんなこの情報提供して頂いた事を、私は地元を持って帰って、私江戸川区ですから。区長を始め土木関係あるいは河川関係の人にも良く話をして、区と住民とが一体となって、これを研究し勉強していこうじゃないかということで、時間はかかりましたけれども、私たちが住む小松川平井地域は完全にスーパー堤防が完成された。それと並行して、景観を少し造ろうということで、もうご存じだと思いますけれども千本桜を植樹しようと。当初、今から 20 年ほど前ですけれども、ちょうど一人一本づつ一万円ずつ出して植樹しようじゃないかということで、街の人に声をかけたら 500 万円集まりました。500 万でまずは一本づつ桜の木を植樹して、今は立派な花が咲くようになってきた。私共としては、やはり江戸川区のテーマでありますけれども、「水と緑と豊かな心」ということが江戸川区のテーマとなっております。これはやっぱり実現して行くには、住民も行政も一体になってこれを取り組まなきゃいけないんだと。いろんな注文をする事は良いけれども、出来る事と出来ない事があるんだから、まず出来る事からやってもらおう、やっぺいこうと。ということで、一年一年積み重

ねてきました。冒頭で申し上げました様に、荒川市民会議というのは、今の国土交通省の以前の建設省で作られて、私はなぜそこで出してもらったかという、東京都の野球連盟、この河川敷にはご存じの様にグラウンドがいっぱいあります。これは、よその県ではこれほどの河川敷を使ってグラウンドがあるということは、ありえないぐらいたくさんグラウンドを持っています。そこに、言いにくい事ですけども、自然保護団体とかそういう方々が真っ向から反対された訳です。グラウンドをもっと減らせと。もっと自然地をあれしてくれと。始め集まったときは、そもそも荒川市民会議を作ったという時は、なにか喧嘩するため、お互いの足を引っ張りっこする為に集まったような会議だったんです。で、そういうことをやっていったら、一番迷惑するのが住民であると同時に、それに携わる例えばこの荒川下流工事事務所の職員の皆さんもどうして良いのかわからないということになるから、それはちょっと横に置いて、自分たちが望むこととか、相手に対しての一步譲るという気持ちも必要じゃないんですかと言う風な形で、お互いがもっともっと話し合っ行って行かなきゃだめだと。お互いに集まったときは、そういう様な団体ですから、悪い言葉で言えば利益団体が出てきた様なもんだから、それほど開かれてなかった訳ですね。しかしだんだんと会を重ねる毎に、特に野球連盟というものは申し上げた様にグラウンドはいつでも有して、普段の日曜日でも今でも一万五千人ぐらいの方が三郷、川口、板橋、北、荒川、足立、葛飾、墨田、江東、江戸川という風に利用している人たちは、お天気の日だとこのグラウンドに一万五千人ぐらい使う。なぜ私がこだわりますかと言うと、私は少年野球連盟の東京都の少年野球の創設した一人なんです。そういう関係で、東京都の野球連盟が自分から始め出されたわけじゃなかったんです。東京都の野球連盟が、当時の建設省から荒川河川についていろいろと会議を作りたいから、どなたか出してもらえないかと言うことで、江戸川区に、学童野球連盟の理事長の■■■と言う人がいるからその人を出しますからとういことで出されたのがここの始まりだった。ですから出されたけれどもはじめは何をやって良いのか私も分からなかった。今、申し上げたように、いろんな様々な団体の方がおいでになった。ですから逆に、お互いに勉強しっこしましょうよと、ワンドが多いところには余計なグラウンドは作らない。自然地にしていくと言うことで私たちも協力します。みなさんも自然地で、あるいは絶滅機種のトンボだとかそういう生き物に対して、ここはこうゆう場所だから、ボールはなるべく跳ばないようにその時その時に教えてやって下さいと言うようなところから始めていきました。本来ならば、河川はもう、私らもはじめて分かった事ですけども、50cm以上のものを育てられないと言うことをその時、知ったんですけども市民会議をやり、また、下流工事事務所、国土交通省の協力によりまして、今、総武線の所に柳の大きな木が植われました。また、子供たちが、水遊びができるように川の一部をなんか入れて池をずらして、そういうことも地元の人とここの下流事務所の皆さんと一緒にやっていただいた。ですから非常に今、当時反対した人はそれを利用してのわけです。だから今だから言えることだけれど、あんたは反対したから反対してもやっぱりちゃんと使うんだから頭から何でも反対するんじゃないよと、これは、

きざな言い方ですけども、私が■■■■で、約うちの方は6万8千人の人口がいるわけです。町会にすれば約70、町会、自治会含めると、そういうお役目もありますので、こと荒川に関しては非常にみなさん敏感にほとんど、それにおいていただいて最終的には反対者がなくなって、スーパー堤防が完全に仕上がってきた。現在も少し災害が鬼怒川のようなああいふ大きな水害があると平井という街は、昭和24年のキティ台風で全戸水没してしまったという記録がございますので未だに、80歳90歳の皆さんはトラウマになってしまっていると。ですから堤防を作る方は、そういう世代の人は大賛成だった。当時はやはり若い世代の人は、堤防が作っちゃったら川が見えねえとか、そういうことも本当に小さな事かもしれませんが景観がどうのこうのという風なこともたくさんありました。しかし、そういうことを含めて住んでいる以上は、やはりもっともっとお互いに知恵を出し合って、こういう問題をクリアしていかなきゃいけないんだと言うことで江戸川区の土木の人たちも非常に一緒になって私たちと共に、そういう計画案を荒川下流工事事務所と計画してくれました。また一方、市民会議の方でも私たちは、川がきれいになったんだったら、みんなで川をきれいにしようと、ですから、何回も申し上げますけども野球をやったりスポーツをやる人も試合が終わったら、必ず自分たちが使ったグラウンドにタバコ1本落とさないでみんなで持って帰って、掃除して下さいと言うような形でやってですね、当時、我々にクレームをつけた方々が、今、一生懸命清掃してくれています。ただ私もその時はっきり申し上げたのですが、私らも清掃して帰るからあなた方もねトンボだカエルだと言っている前に、周りを掃除して下さいよと手が足りなかったら私たちも手伝いに行かせるからと言うような形で非常に今はうまくいって、逆に自分たちが春と秋に美化運動というのをやるんです。荒川河川敷の江戸川区として。それもローテーションが毎年決まっています、その人たちの団体と私たち70町会くらい全部で出て河川の清掃をする。もちろん使っているスポーツ団体も皆さん一緒になってやってくれると言うことでですね、非常にいい生態になってきました。先ほどおっしゃいましたように欲を言えばもっともっと本当に遊覧船ができたり、あるいは、船が乗せて自由に乗れるというような事も考えていますけど、いろんなやはり地域、地域によっては違いがありますので、それをどうしようとは思いませんけど、夢は一番、今、私お願いしたいのが最後になりますけども、お願いしたいのは、堤防に外灯がついていないという、防犯上やはり一番問題になっているんですね。昼間はいいですけども夜になると真っ暗になるんです。土手より家が下の方ですから、家の明かりは下の方にあって、土手そのものには、スーパー堤防そのものには、外灯がほとんどついていないと言う事で、できるならば出来ることからと言うことで、お願いするならば防犯灯をですね兼ねた外灯を付けてやって欲しいという風に考えています。先ほどの話にありましたようにトイレだとか防災道路とかそういうものは順次できあがってきて非常に重宝に使わせて頂いているし、住民の皆さんも非常に親しみを持ってですね荒川に親しんでくれている。江戸川区の場合、一昨年、国民体育大会でボート競技が行われました。その時もやはり大勢の方が約1万5千人位の人が出てくれて、おもてなしをし

たりいろんな形で荒川の良さを全国にPRできたと言う事です。今日は本当にみなさんもお忙しいところ、あまりまとまらない話でしたけれども荒川スーパー堤防、大いにやっぱり作って頂いた以上は、我々はそれを感謝しながらまた、利用させて頂くと言うことを重ねて申し上げてお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

以上